

## 「平成 30 年北海道胆振東部地震」における被災地への支援活動（学生向け留意事項）

平成 30 年 9 月 10 日時点の情報

文責：附属防災教育未来づくり総合研究センター長

宮城教育大学では、東日本大震災発生以降、旧教育復興支援センターを通じて、東日本大震災被災地の復旧・復興のため学生ボランティアの派遣を実施してきました。かかるボランティア活動は、このたびの被災地に所在する北海道教育大学の多数の学生の継続的な支援を得て実現できました。未曾有の大規模災害に見舞われた北海道の方々を支援したいという思いをもった学生もいることでしょう。大学生など若者の力や創意は、被災地の復旧・復興において不可欠です。災害被災地のボランティア活動を展開している附属防災教育未来づくり総合研究センターは、平成 30 年北海道胆振東部地震災害臨時連絡室を設置して、被災地はもとより、学生のボランティア活動を支援していく方針です。

いっぽう、被災地の一部では停電、断水等が続いています。また、被災地までの道路も損傷などしているため、これらの課題が解決されないうちにはボランティアを受け入れることができません。学生の皆さんにおかれては、支援のあり方を十分見極めた上で行動してください。そして、今後、支援活動に従事予定の学生には、必ず下記の点に留意してください。

### 記

・平成 30 年 9 月 10 日時点で北海道胆振東部地震の被災地ではなおも一部で停電、断水等が続いています。また被災地までの道路も損傷などしています。余震や斜面の崩壊等にも注意が必要です

・災害発生直後は、人命救助が最優先されます。被災地でのボランティア受け入れの体制が整ってから活動してください。拙速な「支援」行為は、かえって負担や迷惑となり、被災地における更なる混乱を来す一因となります。

・災害発生直後の被災地では、危険な場所が多く存在します。状況が落ち着きボランティアとして現地で活動する際には、現地の行政機関、警察、消防などの指示を厳守するとともに、災害情報の収集につとめ、危険地域には絶対に立ち入らないで下さい。

・本学を通じて、学生が加入している保険は、事前の届出がないと災害被災地での活動での事故をカバーしませんので、必ず事前に附属防災教育未来づくり総合研究センターに相談してください。

・不明な点・不安な点等があれば、附属防災教育未来づくり総合研究センターまで気軽に相談してください。

・被災地へボランティアに出向く場合の、大学への届け出については、附属防災教育未来づくり総合研究センターに確認してください。

問合せ先

防災教育未来づくり総合研究センター

メールアドレス fukkou@adm.miyakyo-u.ac.jp

Tel 022-214-3296